

港区教育アーカイブ通信_Vol.02

デジタルアーカイブを活用する、新しい教育方法に関する情報を発信☆

1 港区教育アーカイブ通信とは？

港区教育委員会では、港区のデジタルアーカイブ「[デジタル港区教育史](#)」
「[デジタル版 港区のあゆみ](#)」を活用した「港区デジタルアーカイブの教育
活用コンテスト」を開催予定です。

コンテストに先立ち、デジタルアーカイブの教育に関する情報を、主に港区の小・中学校
の先生に向けて発信します。



2 デジタルアーカイブとは？

デジタルアーカイブとは、
デジタル技術を用いて作成されたアーカイブのことです。その対象は、博物館、図書館、文書館や自治体・企業等の資料など、有形無形の多様な文化資源で、今、学校での活用が期待されています！

『デジタル港区教育史』は地域学習や社会科、総合学習、探究学習等で活用できるお宝資料の山なので必見です☆
<https://adeac.jp/minato-city-kyouiku/>
各地のアーカイブを横断検索できる
JAPAN SEARCH <https://jpsearch.go.jp/>
もオススメです♪

3 どんなアーカイブがあるの？

「港区教育アーカイブ通信」ではVol.1-Vol.3にかけて、
Ⅰ.「教材づくりの視点紹介」
Ⅱ.「港区教育アーカイブのピックアップ資料紹介」を掲載します!ご参照下さい♪

4 どうやって活用すればいいの？



港区教育アーカイブ通信_Vol.02

デジタルアーカイブを活用する、新しい教育方法に関する情報を発信☆

I 教材づくりの視点紹介



Vol. 2: 「繋ぐ」こと

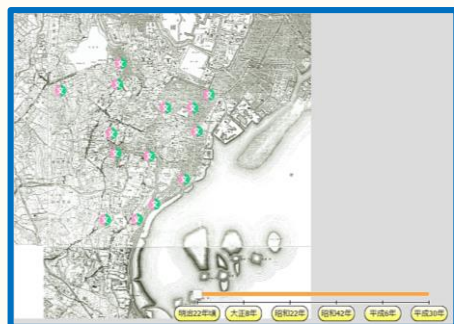
このコーナーではデジタルアーカイブを教材化する際の視点を少しずつ紹介しています。Vol.1では、「問いの誘発」という視点を紹介しました。

今回は、「繋ぐ」こと、という視点でのデジタルアーカイブを活用した教材づくりの視点を紹介します。新学習指導要領でも、思考力・判断力を育成するため、また、多面的・多角的な視座を育むため、「複数の」資料を比較・分析するなど、単一資料の読解を越えた複合的な資料活用の重要性が示されています。これは情報化が加速する今後の時代においては、重要な観点かと思えます。そのような意味でも、デジタルアーカイブに格納されている多様な資料を、「繋いで」活用するのが有効であると考えられます。一つ一つの資料にも勿論魅力はありますが、それらを接続させて提示することで、より多面的・多角的な視座を育む素材として教材づくりを行なってみてはいかがでしょうか。

II 「見る・知る・伝える ～港区教育アーカイブ～」のピックアップ資料紹介

①資料名:「[幼稚園・学校の変遷図](#)」

一言紹介:右下のバーを動かすことで、明治～平成の移り変わりが、実感を伴って確認できます。この地図を入りに、今と昔の地形・人口・交通・まちのようすなど、テーマや時代ごとにグループに分かれて調べていくのも面白そうです。



②資料名:「[櫻田乃夏](#)」

一言紹介:昭和6年に制作された夏の日常的な学校生活が記録された動画です。子ども自身の生活と比較して調べていくと面白い発見がありそうです。

※明治30年頃、大正5～10年に書かれた[夏休みの日記](#)も読むことができます。



III 「港区デジタルアーカイブ教育活用コンテスト」開催のお知らせ

令和4年12月～翌1月にかけて、港区デジタルアーカイブの資料を活用した教材および授業プラン・実践報告を募集します。PDFファイル1枚～10枚程度です。詳細は11月にお知らせ予定ですので、楽しみにお待ちください。

